



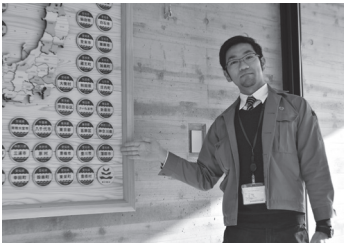
蒲郡市は東三河災害支援隊として、宮城県南三陸町に職員の派遣を行っています。今回は、今年度派遣された職員からのおたよりをお届けします。

【被災地からのおたより】

〜南三陸町より〜

南三陸町は、宮城県の北東部に位置し、平成23年3月11日、あの東日本大震災により甚大な被害を受けました。

その後平成28年度に防災集団移転促進団地、災害公営住宅の整備が完了し、29年度には南三陸町役場新庁舎の完成など着実に復興への道を歩み続けています。



一方で、海岸付近など、いまだ造成中で土のままの部分が目につき、道路や橋など建設中の部分

も多くみられ、やはりまだ道半ばなんだということが感じられます。

あれから7年。風化という言葉をよく耳にします。未曾有の大災害である東日本大震災が完全に忘れ去られることはないと思います。どうしても関心は薄れていつてしまいます。しかし、東北地方で何が起き、どうなったのか、そこから学んだ教訓と対策、そしてそこから立ち上がり奮闘し続けている人たちがいる事を私たちは決して忘れない、忘れてはいけないと思います。これこそが、簡潔で継続的にできる防災対策なのではないかと考えます。

一年間こちらで働かせていただき、学ぶことばかりでした。応援しているつもりが、実は応援されていたように感じます。この経験を生かしつつ、今後もある日以来被災地で闘い続ける人々を応援し続けたいと思います。(足立)

みんなで考える防災コラムは今回が最終号になります。皆さんいかがでしたか？

もしものとき、一つの知識、道具、言葉があなたをきつと助けてくれます。そして、これはいつか現実になる話かもしれません。たくさんさんの小さな備えを大切に。そして：災害に強いまち蒲郡をみんなでつくりましょう。

春を告げる深海の「桜」

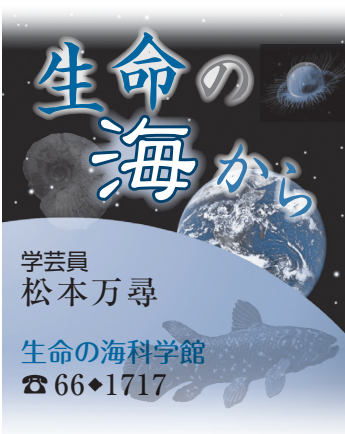
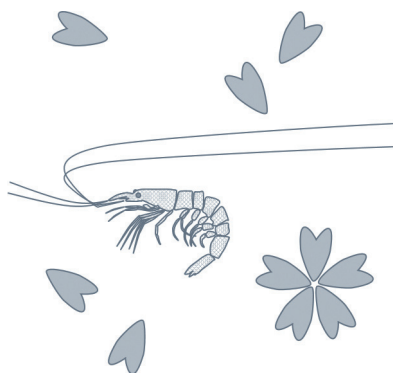
草木芽吹き地虫出づる3月。生きものの大好きな私にとって、ワクワクする季節の到来です。(…が、花粉にはおびえています)あちこちに生きものの気配を感じて目が回りそうになる…のは私だけかもしれないませんが、日ごとに加わる花の色に心が踊る方は多いのではないのでしょうか。モモにスマイレにタンポポ、そして満開の薄紅色・サクラが春の訪れを私たちに教えてくれますね。

桜といえbaumうひとつ、3月に旬を迎えるサクラエビがいます。透き通った桜色の体を指して、この名がつけました。サクラエビは深海のエビとしても知られ、水深200〜300メートルのところが群れで泳いでいます。冬の間はずっと深海にいますが、春になると、夜間に水深20〜50メートルまで浮上するようになります。これは、暖かい季節には浅い海でプランクトンが多くなり、豊富に餌が得られるためと言われます。

小さく柔らかい体で天敵の多いサクラエビは、海の中で身を守るため、体の腹側に160個ほどの発光器官を備えています。水面の光にまぎれることで、海底側にいる敵から隠れていると考えられています。彼らにとっては生き残るため

の必死の発光ですが、天敵であるヒトの私は、深海で光るサクラエビの群れに囲まれない…とのん気に夢見てしまいます。

生命の海科学館では、遠い昔のサクラエビの親戚に出会うことができます。約5億4千万年前に始まったカンブリア紀の海には、「現存のエビ・カニなどが含まれる「節足動物」の仲間が繁栄していました。鎧のような殻をもつ三葉虫やアノマロカリスにぜひ会いに来てください！



学芸員
松本万尋

生命の海科学館
☎ 66♦1717